

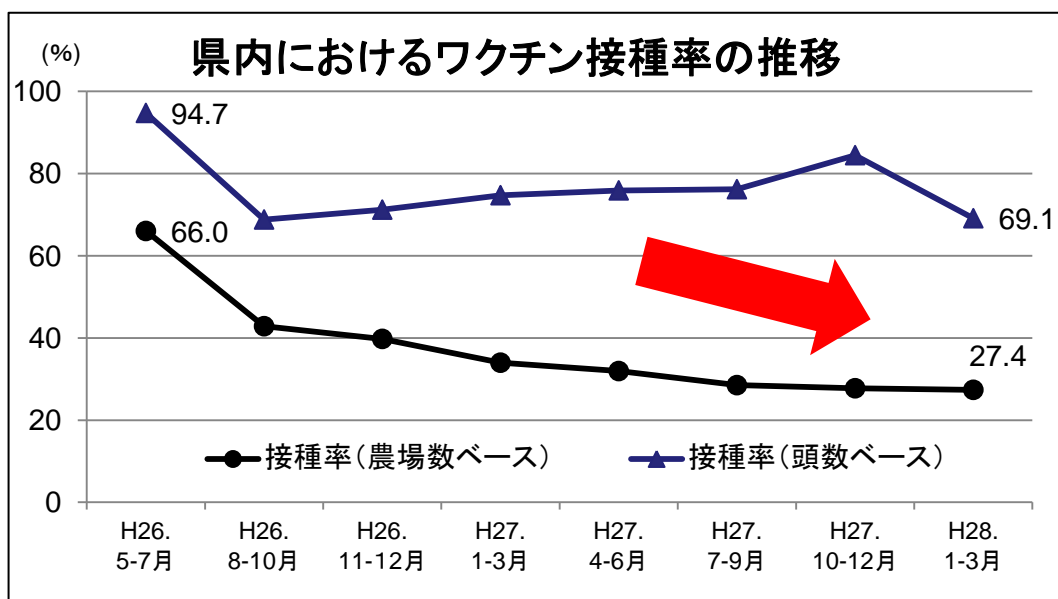
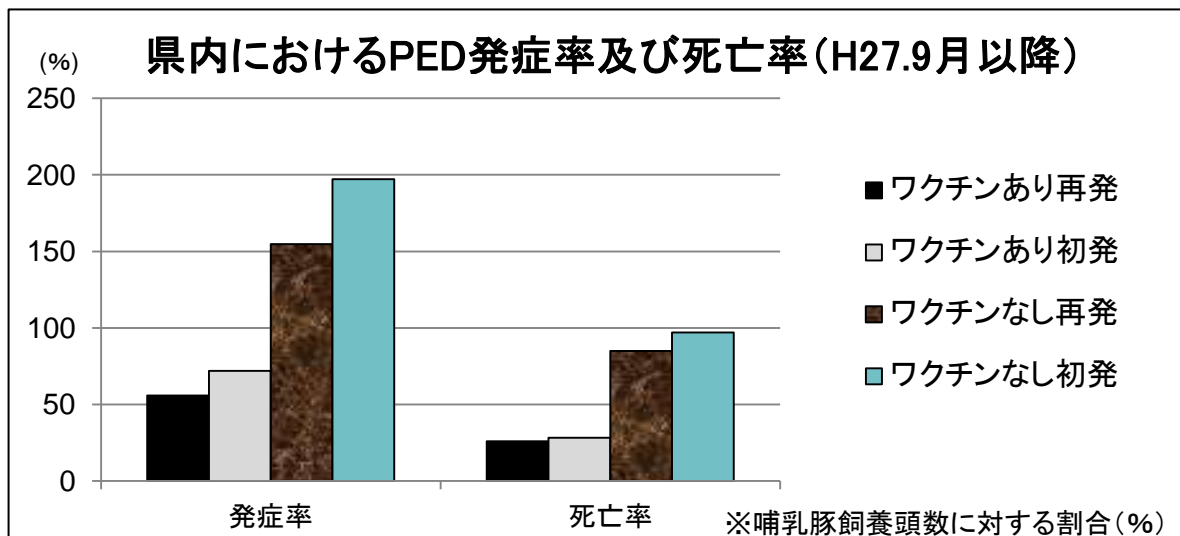
家畜衛生だより

From 中央家保 養豚用



中央家畜保健衛生所・中央動物防疫協議会
 〒262-0011 千葉市花見川区三角町656
 Tel:043-250-4141 (夜間・休日対応)
 Fax:043-286-0090
 (公社)千葉県畜産協会
 〒260-0021 千葉市中央区新宿1-2-3

ワクチン接種でPEDの発症率・死亡率軽減を!



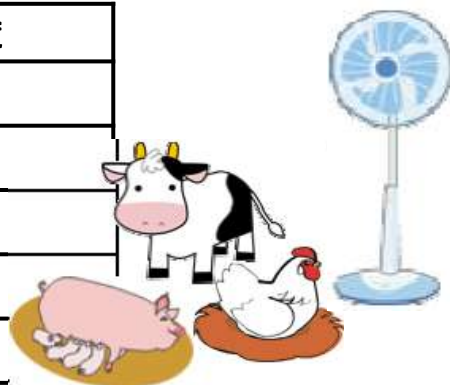
- ワクチンは、感染・発症を完全に防ぐものではありませんが、継続使用することにより、事故率の明らかな低減効果があり、経済効果も期待できます。
- 県内のワクチン接種率は、H26年5月以降低下し続けており、県内における豚群の免疫状態が低下していると考えられることから、積極的なワクチン接種が必要です。

お問い合わせは 千葉県中央家畜保健衛生所まで
 TEL. 043-250-4141 (夜間・休日転送) FAX. 043-286-0090

暑熱対策は万全ですか！？

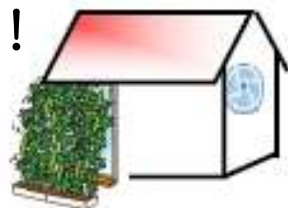
5月に入って、25℃以上の気温を観測する日が多くなっています。暑熱は食欲低下、繁殖障害の原因となり生産性を低下させます。暑熱対策を適切に実施し、今年も暑い夏を乗り切りましょう！

家畜種	暑さで生産に影響を及ぼす温度
乳牛	24～29℃
肉牛	30～32℃
豚	25～30℃
めん羊	29～32℃
鶏	30～33℃



○飼育環境を改善して体感温度を下げましょう！

- ・密飼いを避け、イライラと体感温度の低減
- ・畜体への散水、散霧（ミスト）
- ・換気扇による送風、換気
（風速1m/秒で体感温度は1度下がる）
- ・遮光ネットやよしず、植物による日よけ（特に西日）
- ・屋根裏への断熱材の設置、屋根への石灰塗布、スプリンクラー



○飼料と水の給与に気をつかいましょう！

- ・良質で消化率の高い飼料を給与
- ・冷たい水を、いつでも十分飲めるようにする
- ・給水器の点検も！
- ・涼しい時間帯に飼料給与し、同時に給与回数を増やす
- ・必要に応じビタミンやミネラルを給与し、栄養不足を補う



☆作業者の熱中症にも注意しましょう！

- ・こまめに休憩をとったり、水分・塩分を補給するなど、作業者自身の熱中症も予防しましょう！



暑熱対策の具体的な事例が(公社)中央畜産会のホームページで紹介されています。ご参照ください。⇒ <http://jlia.lin.gr.jp/seisan/>

6月1日は一斉消毒の日です！！

☆飼養衛生管理を見直す機会にして、農場を守りましょう！

1. 出入口の消石灰散布
2. 踏込み消毒槽の薬液交換
3. 来場者の記録
4. 立入者の衣服・長靴の交換確認
5. 畜舎周囲の整理・清掃